

# 伝統的工芸品産業事業者の 魅力を伝える 知的資産経営報告書

～伝統的工芸品産業事業者の魅力とそれを支える知的資産を明らかにする～

漆工芸大下香仙工房

2011年 9月発行

# INDEX

1. 当社の代表製品	.....	1
2. 当社の概要	.....	2
3. 伝統的工芸品産業の歴史や当社のこだわり	.....	3
4. 当社が提供する価値とそれを支える知的資産	.....	4
5. これからの挑戦	.....	5
6. 代表者からのメッセージ	.....	5
7. 作成支援士業コメント	.....	6
8. 知的資産経営報告書とは	.....	7

## 1. 当社の代表製品



漆工芸 大下香仙工房



KIE accessory

Kie-fee & Classic Ko  
By Shizuka Kawanaka for KIE



### 茶道具からステーションナリー、アクセサリーへ



当社の代表製品は、4代目から5代目にかけて大きく変遷しております。現代表の4代目宗香は、山中漆器の伝統ともいえる茶器が中心でしたが、ステーションナリーやアクセサリーの分野も切り開くようになりました。

漆工芸 大下香仙工房

## 2. 当社の概要

### ■ 経営理念

伝統的に培ってきた技術、素材、歴史を生かし、漆・蒔絵のモノを造りを伝える事で、手作りのものを普通に使う気分や、楽しい気持ち、心地よさに繋がる豊かさを創造すること。

### ■ 当社の特長

#### ● 蒔絵の技術

当工房の蒔絵の技術は、京都の名工・五十嵐道甫の流れをくんでおります。工房として120年以上前から传承されているだけでなく、山中漆器の蒔絵の礎となっております。現代においては、漆ではなく樹脂加工が施されたモノに加飾を施す技術や、工程を簡略化させたものの加飾のボリューム感を確保する技術(色くり蒔絵)を発展させました。

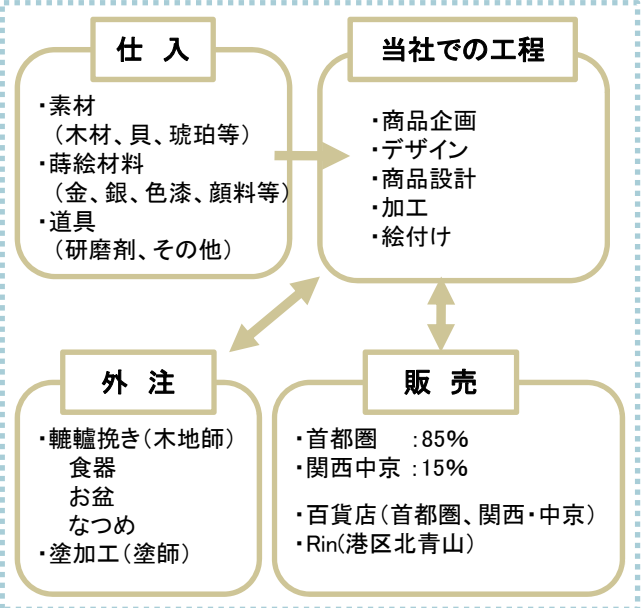
#### ● 一貫生産体制のプロデューサー

蒔絵師の多くは、産地問屋である「商人」の下で一工程を担う場合が多いです。しかし、当工房は、所属作家がチームを組んでプロデューサーとなり、商品企画から販売までを担っております。当工房は、加飾だけでなく素材の加工も行っております。轆轤挽きや塗加工は協力事業者へ依頼しております。

#### ● デザイン力

当工房のデザイン力は、所属作家の多様性から生まれております。各作家は、茶道、現代的なグラフィックデザイン、油絵、現代版画、日本画を学んでおり、独自の世界観を蒔絵にて表現しております。また、女性ならではの感性によるデザインも魅力的です。

### ■ 当社のビジネスモデル



### ■ 企業概要

【代表者】 大下 宗香(そうこう)  
 【住所】 石川県加賀市二子塚町103-2  
 【業種】 漆器製造業  
 【従業員数】 5名  
 【URL】 <http://www.koukoubou.com>

### ■ 沿革

明治27年 初代大下雪香(せっこう)が創業。  
 大正 4年 2代目峰香(ほうこう)が雪香から独立。  
 3代目香仙(こうせん)が山中に蒔絵組合を設立。  
 昭和54年 4代目宗香が漆工芸大下香仙工房を設立。  
 個人工房からの脱却を目指した。  
 平成 8年 小松市鉄人レース記念に高円宮殿下へ印籠を献上。  
 高円宮両殿下、当工房へ公式訪問  
 平成18年 [KOUkoubou][Clasicc Ko]ブランド設立。  
 平成21年 中部経済産業局地域産業資源活用事業に認定される。

### ■ 所属作家 ※カッコ内は出身分野

4代目 大下 宗香 (加賀蒔絵・茶器)  
 5代目 大下 香征 (グラフィックデザイン、彫刻)  
 大下 香苑 (油絵・洋画)  
 大下 百華 (現代版画)  
 大下 亜紀子 (日本画)


### ■ アクセス



### ■ 連絡先

TEL : 0761-77-5250  
 FAX : 0761-77-5450  
 E-Mail : [info@koukoubou.com](mailto:info@koukoubou.com)  
 担当者 : 大下 香征(こうせい)

### 3. 伝統的工芸品産業の歴史や当社のこだわり

起源や歴史	隠れた(見えにくい)技術	(表面に)現れた技術	伝統工芸品
<p>山中漆器の源流は、天正年間(1570~1592)、大聖寺川(だいしょうじがわ)沿いに山中町から約20km上流の真砂村(まなごむら)に、越前から木地師が移住し、その挽き物の技術が伝わった頃から始まると言われております。</p> <p>19世紀の前半には塗りの技術や蒔絵の技術が入ってきました。</p> <p>当初は山中温泉への湯治客を中心に販売していましたが、大正12年の温泉電軌開通により商圏が全国に広まりました。</p>	<p><b>轆轤挽き物技術</b></p> <p>山中漆器の技術の真骨頂は、轆轤挽きです。轆轤技術の土台は、道具作り、つまり鍛冶から自分で行うことです。それにより、自らイメージする多様な形状を挽くことが可能となります。</p> <p>また、山中の特徴の、きつ過ぎず・ゆる過ぎず・気密性もある絶妙な「なつめ」の蓋加減すら可能とします。</p> <p><b>拭漆仕上げ</b></p> <p>生漆を木地に摺りこみ、余分な漆を拭き取り、一晩乾かす作業を4~5日繰り返します。薄い塗膜を付けていくことによって透明感のある仕上がりになります。</p>	<p><b>豊富な「加飾挽き」の技術</b></p> <p>わずか3ミリの間に十数本の細い線を挽く「千筋」や、木目の間が透けて見える「薄挽き」、「稲穂筋」の文様が特徴的です。これらは、轆轤の巧みな技を必要とします。</p> <p><b>加賀蒔絵</b></p> <p>蒔絵とは、漆器に漆を用いて絵や文様を描き、金銀粉を蒔いた後、さらに加工研磨することをいいます。</p> <p>江戸期に入って塗りの技術が伝わりとともに、京都、金沢、会津各産地の蒔絵師が伝えた技法を積極的に導入発展させることにより、高度で精緻な加賀蒔絵の技術が伝承されております。</p>	<p>四百年の歴史で磨かれた「轆轤挽き物」技術は、古典的な味わいに新しい感覚が調和した生活用品として親しまれています。</p> <p>産地としては、多数の木地職人を有し、全国一の木地産地としても有名です。</p>  <p>石川新情報書庫 http://shofu.pref.ishikawaj/</p>

#### ■ 当社のこだわり



**企画やデザイン、設計だけでなく、木地の加工から加飾まで**

- 商品企画に関するミーティング
- 図案型紙、③~⑤エスキースノート(デザインや設計を書き留めるノート)
- 加工設備の一部、⑦加工された木地
- ⑧⑨加飾風景
- 色くくり蒔絵の技法を用いた万年筆
- ⑪⑫アクセサリ

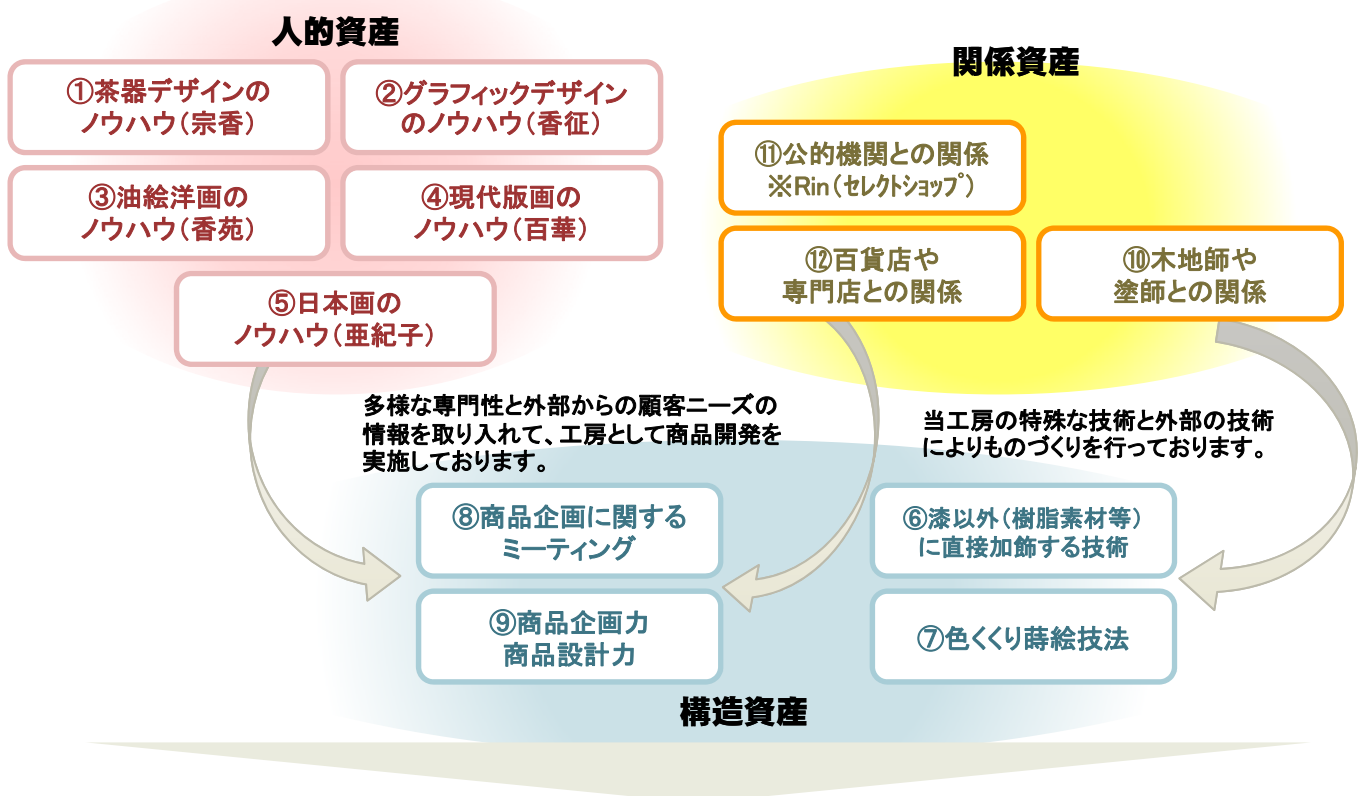


## 4. 当社が提供する価値とそれを支える知的資産

■ 当社のこだわりはなぜ形成されたの？（過去から現在の価値創造のストーリー）

蒔絵技術の確立 ～価値の礎となった技術～	プロデューサーとしての出発 ～茶器と根付け～	身近な蒔絵小物や漆器 ～茶道具からステーションリーへ～
<p>当工場の技術は、初代天下雪香が、加飾技術が高い加賀蒔絵を金沢から学び持ち帰ったものです。雪香は、北前船で財を成した豪族を相手に作品をプロデュースすることもありました。その後、2代目峰香が技術を熟成させ、伝習所等を通じて山中全域に広めました。世界大戦や山中漆器の大量生産の流れにより、一度、手技による技術が途絶える恐れがありました。しかし、4代宗香により継承されました。</p> <p>3代目香仙は、山中にて加賀蒔絵を学び従事する者が増加すると、職人の社会的地位向上と産地の発展を目指し、山中漆器蒔絵組合を設立し、歴代組合長に就任しております。</p>	<p>昭和54年宗香は、作家として商人依存からの脱却を目指し、天下香仙工房を設立しました。宗香は作家として、茶道具の個展、美術サロン、百貨店、専門店を通じ、自ら販路を開拓しました。また、協力事業者との連携関係を築くため、茶道の宗偏流に入門し、さらには伝統工芸士会、亜細亜美術協会、加賀美術協会、各種組合、ロータリーにて人脈を広げました。</p> <p>宗香は、茶器以外的高级品として根付けにも取り組んでおります。その結果、高円宮両殿下や日本文化研究家のジョー・ブライス、ロバート・キンゼイ、印度大使と交流するようになりました。なお、高円宮両殿下は工房に公式訪問しております。これらの交流において多くの提案を頂き、当工場の企画力、信用力が高まりました。</p>	<p>当工場は、セーラー万年筆株式会社（江東区）、との協同で蒔絵を施した万年筆を開発しました。この開発を通じ、漆器以外の素材～樹脂素材～に加飾する技術を確立しております。なお現在は、プラチナ万年筆株式会社（台東区）、ピスコティ株式会社（イタリア）との取引も行っております。</p> <p>当工場はこの事業を通じ、茶道具から新たな分野～ステーションリー～への道を開きました。また、プロデューサーとして品質管理のノウハウだけでなく、高度なデザイン性やボリューム感を併存させ、それを可能とする工程も考案する商品設計に関するノウハウをも蓄積しました。さらには、デザインにおいて各作家の専門性を活かすためのミーティングを開催するようになり、工房としての商品企画力も高めました。</p>

■ 当社のこだわりはどのような人や仕組みで支えられているの？



### 【提供する顧客価値】

～現代のライフスタイルに寄り添い、生活に溶け込む蒔絵小物や漆器を提供する～

当工場が提供する顧客価値は、商品企画力や設計力(⑨)、当工場の特殊技術(⑥⑦)、製造に必要な外部との協力関係(⑩)を基に形成されております。商品企画力は、百貨店や専門店(⑪⑫)、例えば三越や伊勢丹等からもたらされる顧客ニーズの情報を基に、多様な専門的ノウハウをもつ作家(①～⑤)が、ミーティング(⑧)を行うことで形成されております。企画・設計された商品は、当工場の特殊技術(⑥⑦)を駆使して、現代社会でも取り入れやすく、且つ魅力的な作品に仕上がります。

※文章中の番号は、上図の知的資産を意味します。

## 5. これからの挑戦

### ■ 当社は常に進化します。(未来の価値創造のストーリー)

#### ブランドの設立

～[KOUkoubou][Classic Ko]～

当工房はこれまでに蓄積したノウハウを活かし、多様化するライフスタイルに寄り添い日常生活に伝統的要素を持ち込む作品を提供したいとの思いで2つのブランドを立ち上げました。漆器のテーブルウェアやステーショナリーを提案する[KOUkoubou]と、クラシック&モダンをテーマに唯一無二で日常の中でも気持ちが高揚する楽しみをおぼえるアクセサリを提案する[Classic Ko]です。

ステーショナリー部門では、工程を簡略化させながらも加飾のボリューム感を確保する技術(色くり蒔絵)を用いた商品を開発し、中部経済産業局地域産業資源活用事業に認定されております。

#### 漆工・蒔絵を、いま様に伝え続ける

当工房は、現状の生活様式やファッションスタイルのなかでも取り入れられる現代性を踏まえたデザインを施した製品を生み出す事で、漆や蒔絵ものを日常生活の中で用いたいという気分を創造していきます。また、それらを取り入れた時にどのような満足感が味わえるのかを、製品本体だけでなくビジュアルやストーリーなど多方面で伝えられる表現力を高めていきます。

当工房が創造している顧客価値を多くの方に伝える事で、漆工や蒔絵ものを普及させることを狙います。

#### ファッション・アートとしての挑戦

～[Classic Ko]のさらなる発展～

当工房は、伝統工芸技術をジュエリー(アクセサリ)分野に転用するという段階に留まるのではなく、本格的なジュエリー(アクセサリ)ブランドとして通用する為のモノ創りとブランドディレクション・打ち出し方を強化いたします。

また、ファッションとしてだけでなく、趣向を凝らしたテーブルウェアやオブジェ等を手掛ける事でお客様の創造力に訴えかけ、伝統を今の社会に繋げ、世界的に類のない蒔絵という技術を日本の地方から世界へ発信する事を目指します。

#### ネクストスタンダードへ

近年当工房は、時代の変遷にのって技術を生かした新分野への挑戦を続けておりました。しかし、4代目宗香が制作してきた茶道具や漆器などを今一度見直し、「茶味のある普段着の漆・蒔絵もの」というスタンスで、永く愛用でき売り続けられるもの、大下香仙工房としてのスタンダードの確立を手掛けていきます。

## 6. ～5代目からのメッセージ～



平成 9年 創形美術学校グラフィックデザイン科修了  
大下宗香に蒔絵を師事

平成10年 石川県挽物轆轤技術研修所にて挽物轆轤・木地の研修を受ける

平成13年 洞爺村国際彫刻ビエンナーレ 入選

平成17年 高円宮殿下・紀殿下根付コレクション 収蔵

平成18年 [KOUkoubou][Classic Ko]のブランドを設立

平成21年 中部経済産業局地域産業資源活用事業に認定される

漆工芸大下香仙工房は、1894年に初代雪香(せっこう)が加賀・山中地域に蒔絵工房を創立してから代々4代に渡り120年近く加賀蒔絵・漆工を通じたもの作りに従事してきました。

地域の富裕層へ趣向性高い高級調度品を制作していた時代、戦後伝統技術産業の復興に尽力した時代、地方問屋の仕事で賃加工業に大きく依存していた時代、高度経済成長の波と共に大きくなった茶道具市場に自らが茶道具作家(メーカー)となって事業開発・挑戦した時代と、大きな変遷をしてきました。

それは漆器製造業としての業態変化と、時代の市場ニーズ変化などに呼応する形で、蒔絵・漆工の可能性を模索・探求してきた歴史でもありました。

5代目大下香征はグラフィックデザインを学んでおり、デザインの力で伝統工芸である加賀蒔絵をもう一度見つめ直し、現代のライフスタイルの中でも取り入れやすい気分を作り出しています。これは単に蒔絵・漆のカジュアル化という事ではなく、自分たちの使うアイテムとして、魅力あるものとして、または自分たちの文化として、現代人にとってリアルに感じられるものを生み出す事を意図します。

工房の若いスタッフの感覚や視点を生かしつつ、ベテランを通じて加賀蒔絵らしさを受け継ぐ姿勢。また、スタッフそれぞれに忌憚の無い意見交換が出来る環境を育んで参りました。

伝統的に培ってきた高度な技術や素材と、現代性を踏まえたデザイン。

そういったアプローチから「ネクストスタンダード」への取り組みと「日本の新しい高級」に挑戦し、伝統に繋げる「今」を創造していきたいと考えています。

## 7. 作成支援士業コメント

中小企業診断士 佐々木 経司

同工房の特徴は、120年弱に渡り受け継がれてきた歴史と技術(構造資産)を土台とし、多様な背景を持つ職人(人的資産)の専門的知見を結集して商品を企画・設計する仕組み(構造資産)により現代のライフスタイルに溶け込む蒔絵小物を創っていることです。

今後は、この素晴らしい作品をあるべきお客様に届けるための販路開拓に注力することを期待いたします。ストーリー性を重視したものづくりに取り組んでいる同工房としては、販売面においてもストーリー性を重視することが重要です。伝統工芸品をファッションアイテムのひとつとして取り扱っている専門店等では、商品にストーリー性を持たせてお客様に提供している場合が多いと考えられます。そのような販路に、同工房が創造してきたストーリーを伝えて販売する取り組みが今後の課題といえます。この課題解決のためには、同工房のストーリーを適切に理解し、販売先が持つストーリーとマッチングできるスキルが必要となります。このスキルは人的資産に拠ることとなりますが、5代目自ら身に付けるのか、専門スタッフを雇用するかを選択がひとつのポイントになるかと存じます。

行政書士 勝尾 太一

加賀蒔絵は、藩政時代、京の蒔絵師と江戸の蒔絵師を指導者として招いたことが始まりといわれております。東西の名工の技を合わせ新たに加賀蒔絵として発展を遂げたこの技術と伝統を受け継ぐ漆工芸大下香仙工房は、新しい何かを生み出そうとする気概に満ちあふれた工房です。

大下香仙工房には、多様な分野を背景に持つ作家、職人が在籍しております。これが人的資産に厚みを持たせることになっております。多様な背景を持つ作家、職人達の感性や技術が新たな商品企画、デザインには欠かせない要素となります。それは、あたかも加賀蒔絵が生み出されたと同じく、優れた技術や感性を融合することにより、新しい品を生み出すことを予感させます。“多様でありながら、大下香仙工房らしい”という一見相反するように思える工房の原点を今一度見直すことが事業を展開する際のポイントとなってくると考えます。例えば、構造資産たる大下香仙工房というブランドをより鮮明にすることにより、職人の創作活動を促し、人的資産をさらに強化することや、新たな販路開拓、既存の取引先との関係強化に繋がり、全体として、大下香仙工房が提供する価値を高めることになると考えます。

工房の中で誰もが忌憚のない意見交換ができる環境(構造資産)があることが、その一助となると考えます。更なる飛躍に期待いたします。

弁理士 横井 敏弘

漆工芸大下香仙工房(以下、当社)は、代々受け継がれてきたエッセンスを軸に置きながら、各個人がチャレンジしてきた歴史を有する。すなわち、当社の歴史の中で、「ものづくりに対するこだわり」や「美意識」が単に承継されるだけでなく、各個人の個性や主張が各個人の作品に反映され、後に当社のエッセンスに昇華している。

今後も、「伝統工芸」の語に囚われすぎることなく、当社のルーツやエッセンスを軸に自由にチャレンジされることを期待します。具体的には、4代目と5代目がそれぞれの考えで当社や加賀蒔絵のエッセンスを解釈し、それぞれが作品作りを通して新たな地平を開かれることを期待しております。その際に、当社が連続として受け継いできたブランドイメージと、各個人に固有のブランドイメージとをうまくミックスさせて、各個人の主張や解釈を中心としたブランド・意匠を展開して頂きたい。

## 8. 知的資産経営報告書とは

### 【意義】

「知的資産」とは、従来のバランスシートに記載されている資産以外の無形の資産であり、企業における競争力の源泉である人材、技術、技能、知的財産(特許・ブランドなど)、組織力、経営理念、顧客とネットワークなど、財務諸表には表れてこない、目に見えにくい経営資源、すなわち非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー(利害関係者)に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動(価値創造戦略)として目に見える形で分かりやすく伝え、企業の将来に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。経済産業省から平成17年10月に「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、本報告書は原則としてこれに準拠して作成いたしております。

### 知的資産のイメージ



### 【注意事項】

本知的資産経営報告書に掲載しております将来の経営戦略及び事業計画並びに附随する事業見込みなどは、すべて現在入手可能な情報をもとに、弊社の判断にて記載しております。そのため、将来に亘る弊社を取り巻く経営環境(内部環境及び外部環境)の変化によって、これらの記載する内容などを変更する必要を生じることもあり、その際には、本報告書の内容が将来実施又は実現する内容と異なる可能性もあります。よって、本報告書に記載した内容や数値などを、弊社が将来に亘って保証するものではないことを、充分にご了承願います。

この知的資産経営報告書は、石川県が株式会社迅技術経営に委託した石川県民間提案型継続雇用創出事業「伝統的工芸品産業事業者の魅力伝える知的資産経営作成事業」により作成いたしました。